

「中国やまなみ街道の全線開通に伴う 地域経済への波及効果」調査 (最終報告)

平成29年3月



目 次

1. 平成28年度調査結果

 調査の目的・概要

 調査結果

2. 中国やまなみ街道の全線開通に伴う波及効果・今後の方向性

 山陰・山陽間の広域的な物流・人流の拡大

 沿線の地域振興に向けた取組の活発化

 沿線の経済活動の拡大、交流・連携の進展

 中山間地域における地域内ネットワークの拡大

1. 平成28年度調査結果

 調査の目的・概要

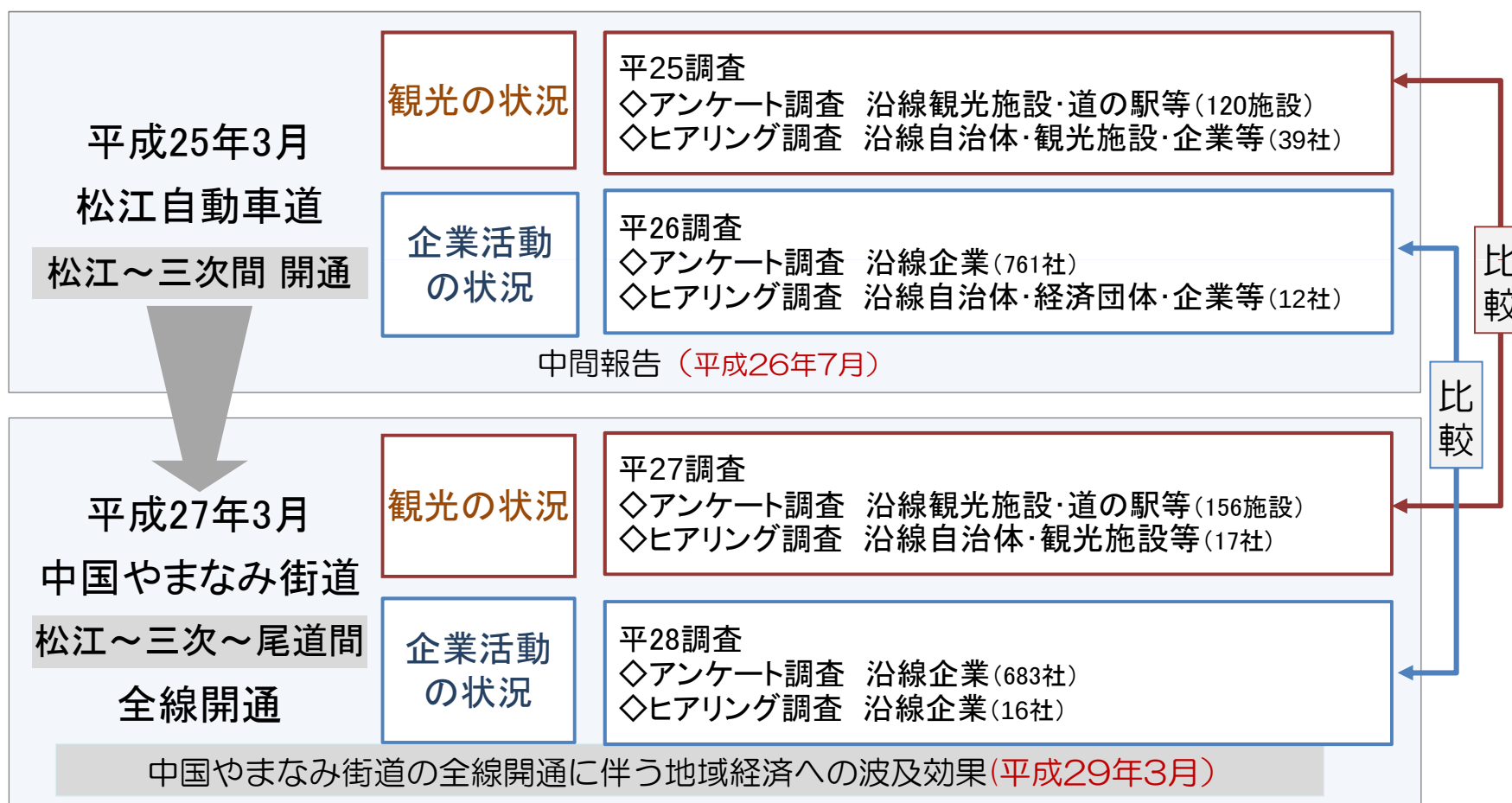
 調査結果

- 中国やまなみ街道の全線開通に伴う波及効果
- 企業が立地する地域における変化
- 全線開通に伴う今後の事業展開
- 中国やまなみ街道の利活用にあたっての展望

調査の目的

- 平成25年3月に松江自動車道(松江～三次)、平成27年3月に尾道自動車道(三次～尾道)がそれぞれ開通し、中国横断自動車道(中国やまなみ街道)が全線開通。
- 中国地方を横断する(大半区間が)無料の高速道路の開通が、地域経済や地元企業の活動に与える影響把握を目的に、沿線企業等を対象としたアンケート・ヒアリング調査を実施。

【調査実施状況】



平成28年度調査の概要

■ アンケート調査

1. 対象エリア

中国やまなみ街道の全線開通の波及効果を受け易いと考えられる広島・島根県内の6エリア毎に350社を抽出(合計2,100社)。

2. 対象業種

製造・卸売・小売・農林水産・飲食・宿泊・建設の7業種を対象。

3. 調査期間

平成28年(2016年)4月18日 ~ 5月18日

4. 回収状況

683件(回収率32.5%)

■ ヒアリング調査

アンケート回答企業を中心に、エリア・業種を考慮した上で、平成28年7月~10月に16社を対象として実施。

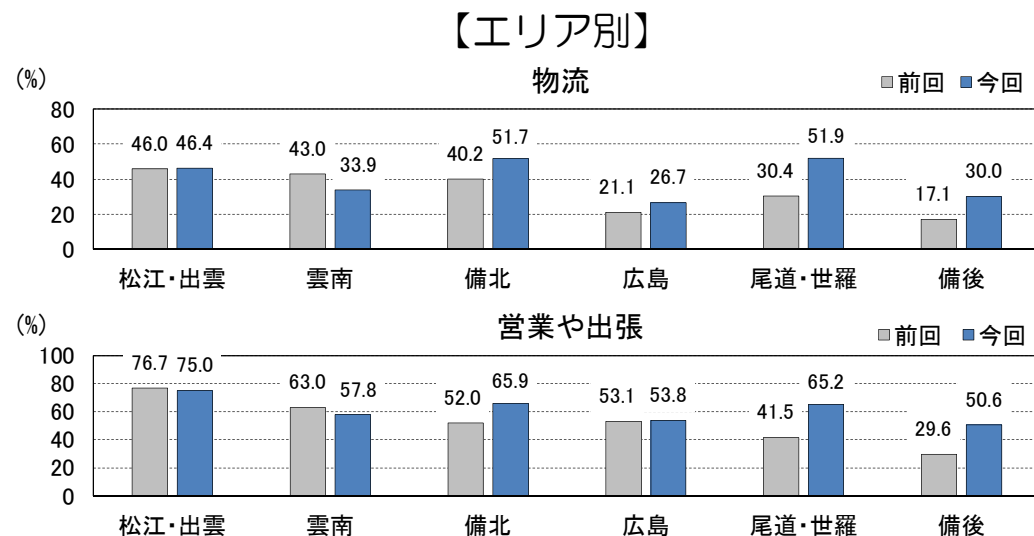
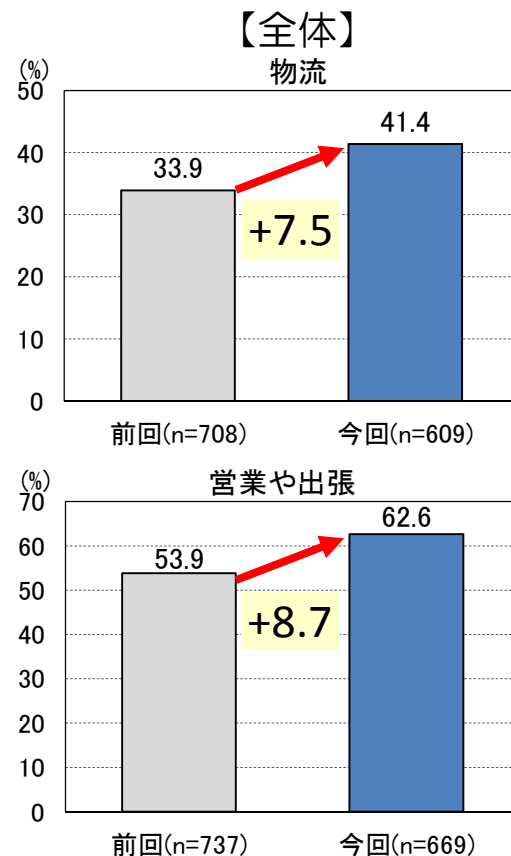
対象エリア



(1) 利用率の変化

- 中国やまなみ街道全線開通後の利用率は、3年前の松江道開通後と比較し、物流で7.5ポイントの増加、営業・出張では8.7ポイントの増加。
- エリア別では、今回開通した区間である尾道・世羅エリアで+21.5ポイントと大幅増加。備北・備後でも10ポイント以上の増加。沿線全線で活発に利用されていることが窺える。

中国やまなみ街道の利用率（H25/3 松江道開通後とH27/3中国やまなみ街道全線開通後の比較）



企業ヒアリング

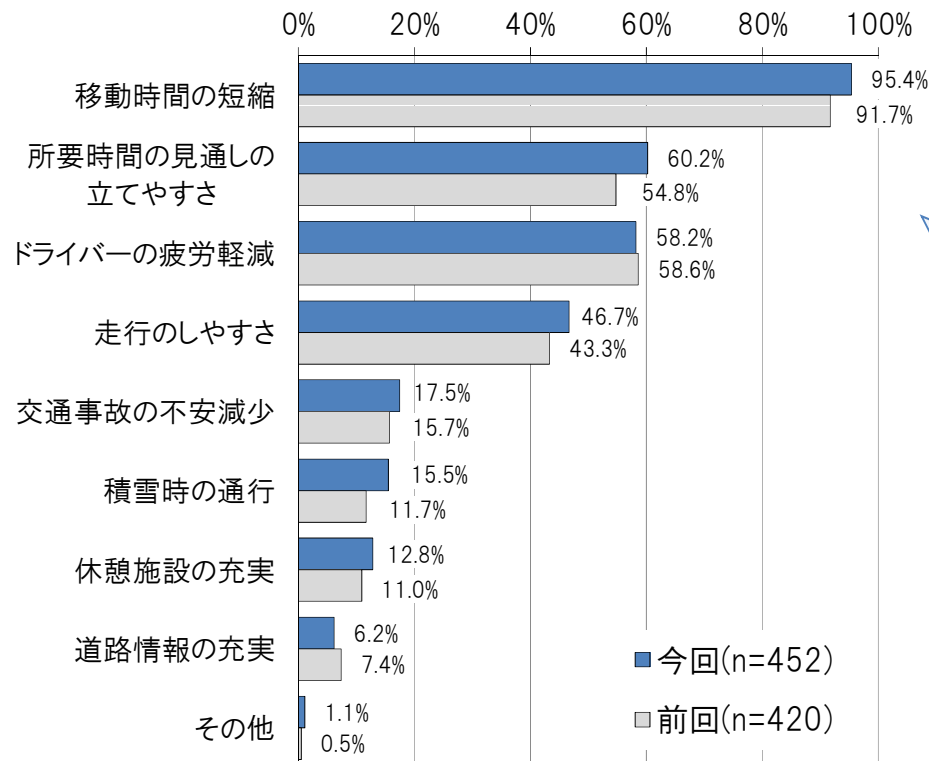
- 中国やまなみ街道開通の影響は非常に大きく、交流人口が増え、行動範囲も広がった（松江・出雲地域、製造業）
- 物流としては拠点間の大動脈が大事であり、広島～松江間の大動脈が高速道路で結ばれるという点で、松江道は非常に効果があった（広島地域、卸売業）

※前回：H25/3松江道開通後、今回：H27/3やまなみ全通後

(2) 開通前(在来国道)との比較

- 中国やまなみ街道利用者のほぼ全員が「移動時間の短縮効果」を実感。
- 次いで「所要時間の見通しの立てやすさ」が約6割。企業活動においては、「時間が読める効果(定時性)」を重要視していることが窺える。
- 日常的に物流で利用する卸売業等からは「ドライバーの疲労軽減」を挙げる声も大きい。

中国やまなみ街道開通前(在来国道通行)と比較して良くなった点



企業ヒアリング

時間が読めるようになったことが最大のメリット。遠回りや多少の料金がかかっても高速道路を使い、確実に到着することが重要。
(広島地域、卸売業)

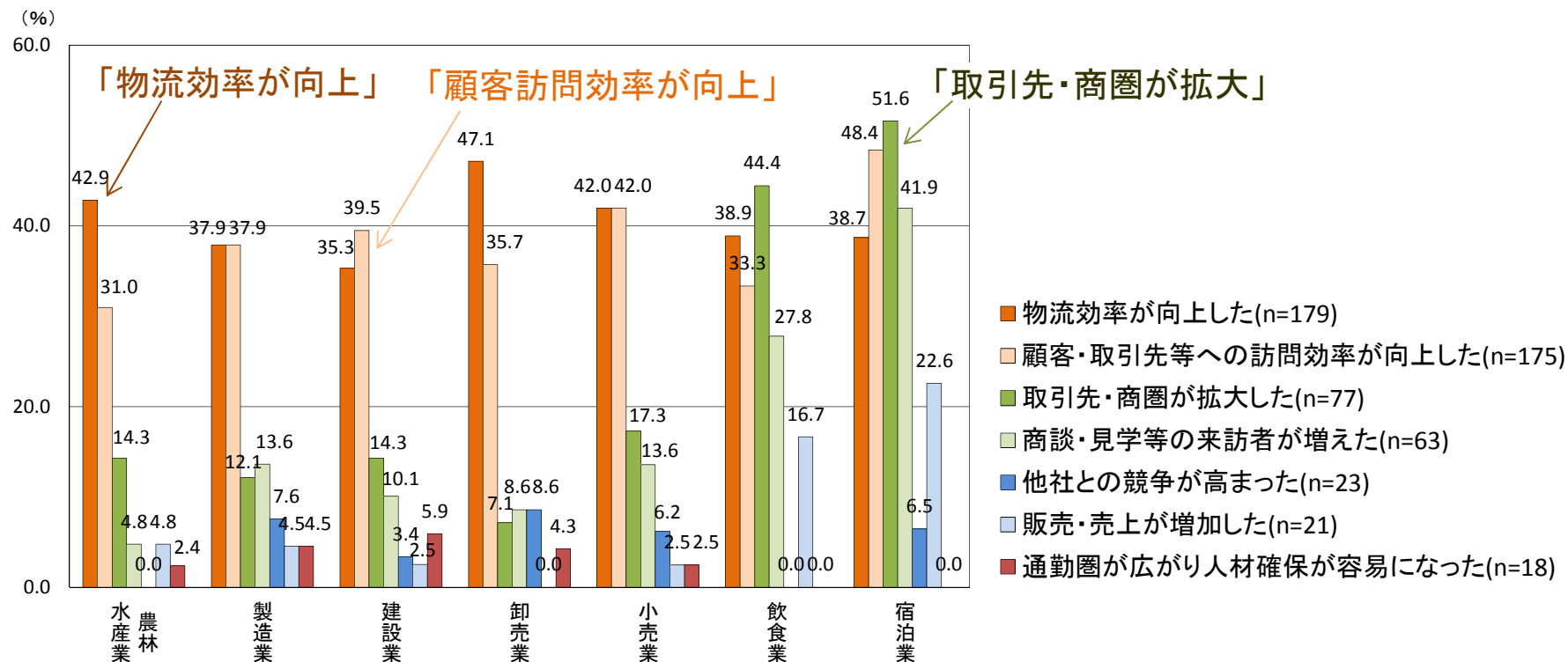
高速道路は早さも大事だが、ドライバーの疲労軽減効果も大きい。
(雲南地域、卸売業)

(注) 中国やまなみ街道を物流、営業等で利用した企業が対象

(3) 事業活動への効果・影響

- 約4割の企業が「物流効率の向上」「顧客・取引先等への訪問効率の向上」を認識。
特に松江・出雲、広島、備北(今回開通)などのエリアの回答が高い。
- 飲食・宿泊業では「取引先・商圏の拡大」効果への認識が高い。
高速道路開通の効果が物流に先駆け、観光等の人流でいち早く発現した結果と考えられる。

中国やまなみ街道の利用による事業活動への効果・影響

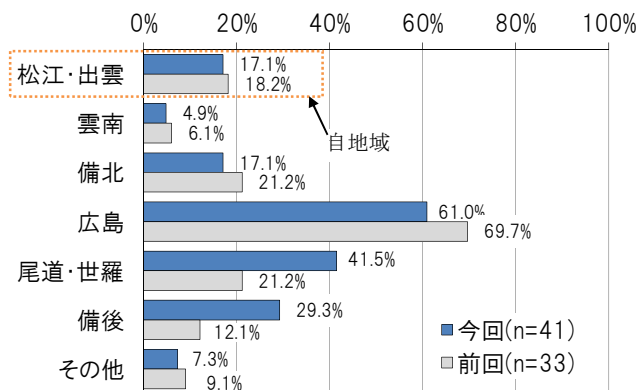


(4) 取引先・商圈の拡大

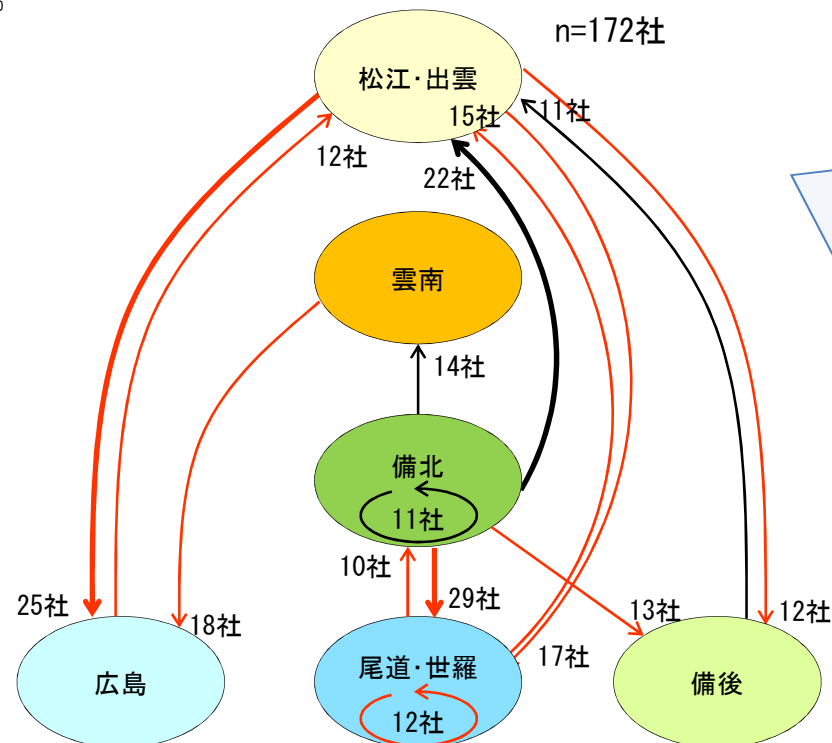
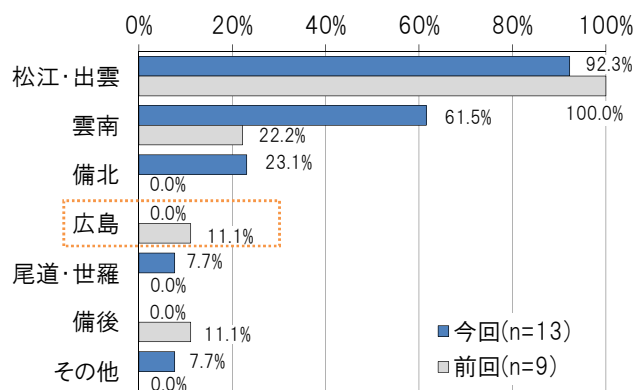
- 取引先・商圈エリアが中国やまなみ街道に沿って南北に拡大しつつある。
- やまなみ街道の全線開通により、拠点都市間の連携が進むなど交流圏が拡大しつつある。
 松江・出雲、雲南では「広島」への取引先・商圈が最も拡大
 新たに開通した備北では「尾道・世羅」「備後」へ、尾道・世羅では「備北」へ拡大

取引先・商圈が拡大したエリア

〈松江・出雲〉取引先・商圈が拡大したエリア



〈広島〉取引先・商圈が拡大したエリア



(注) 10社以上を表示。20社以上は太線。赤線は前回に比べて増加。

企業ヒアリング

飛躍的に商圈が広がった。これまで考えていなかった福山と取引が始まった。(雲南地域、農林水産業)

中国やまなみ街道の開通に伴い、営業範囲を四国まで拡大した。四国からの宿泊客も増えている。(松江・出雲地域、宿泊業)

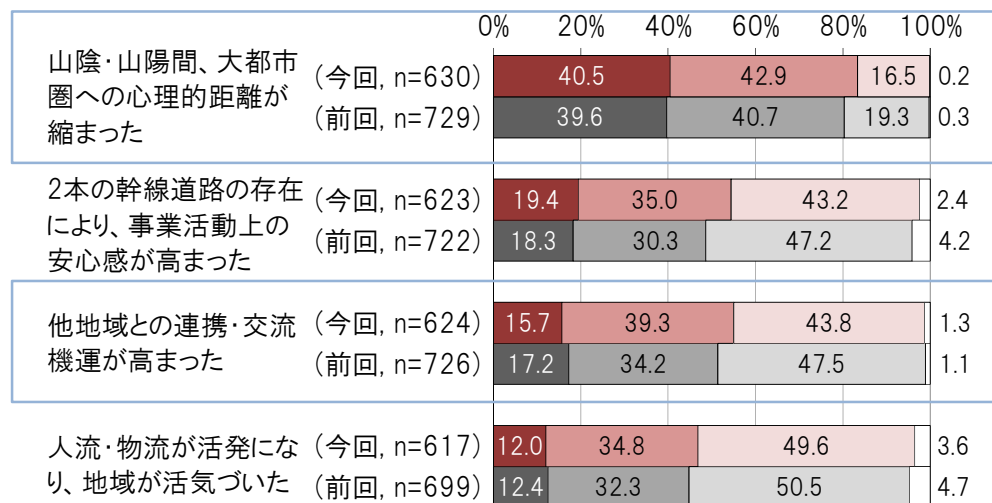
(1) 全線開通に伴う影響・効果

- 中国やまなみ街道沿線の83%が山陰・山陽間の「心理的距離の短縮」を実感。なかでも松江・出雲では90%以上が「そう思う」「多少そう思う」と肯定的な回答。
- 他にも、「事業活動の安心感が高まった」(54%)、「他地域との連携・交流機運が高まった」(55%)など、多くの企業が全通によるメリットを感じている。

中国やまなみ街道の全線開通による地域の変化

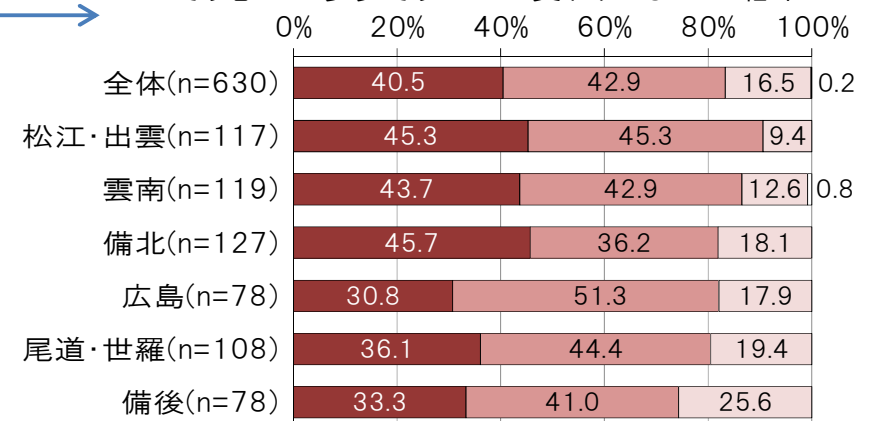
【全体】

■ そう思う ■ 多少そう思う □ 変わりはない □ 低下した



「山陰・山陽間、大都市圏への心理的距離が縮まった」【エリア別】

■ そう思う ■ 多少そう思う □ 変わりはない □ 低下した



 **企業ヒアリング**
山陽側と心理的な距離が近くなった。
(松江・出雲地域、製造業)

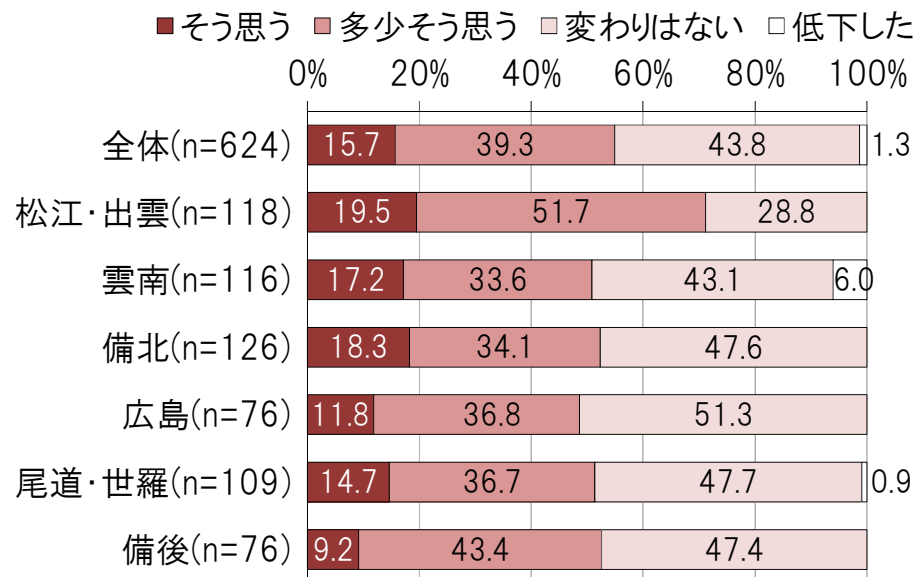
 松江から広島までがとても近くなり、
道路開通のメリットは大きい。
(松江・出雲地域、宿泊業)

(2) 連携・交流機運の高まり

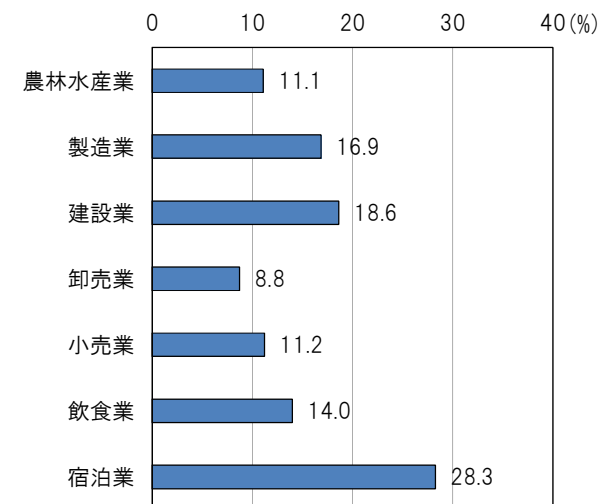
- 「他地域との連携・交流機運が高まった」と感じた企業は松江・出雲で最も多く、約7割。
他のエリアでも5割以上の企業が連携・交流機運の向上を感じている。
- 業種別では「宿泊業」で「そう思う」と回答した企業が多い(28%)。中国やまなみ街道の開通に合せて「しまなみ・中国やまなみ沿線観光協会連絡協議会」が設立されるなど、観光関係の連携・交流機運が高まりを見せている。

中国やまなみ街道の全線開通による地域の変化

「他地域との連携・交流機運が高まった」【エリア別】



「他地域との連携・交流機運が高まった」【業種別】（「そう思う」と回答した割合）



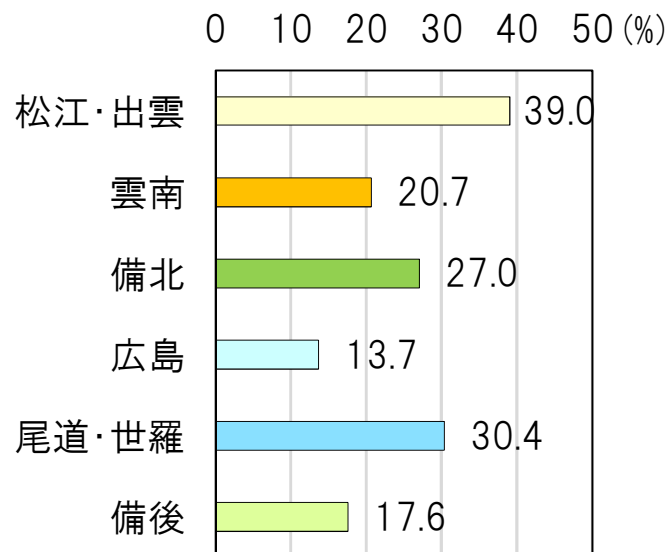
企業ヒアリング

やまなみ街道沿線だけでなく、しまなみ海道まで含んだ「しまなみ・やまなみ」でのイベントや会合が増えた（尾道・世羅地域、卸売業）

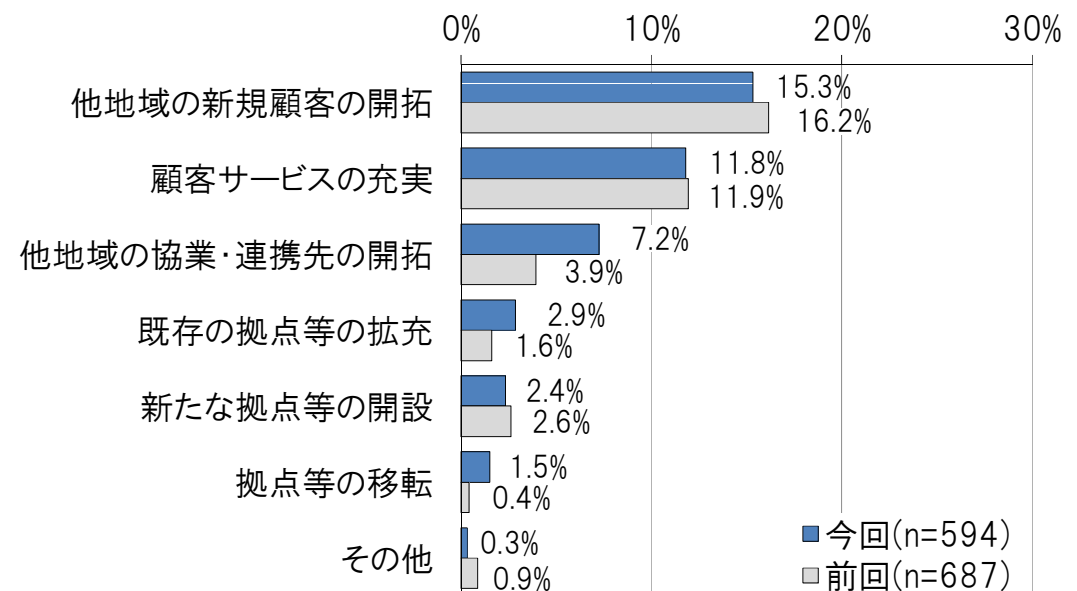
(1) 新たな事業展開への意向

- 沿線企業の4社に1社(25%)が今後、何らかの事業展開を考えている。
地域別には、「松江・出雲」で39%、「尾道・世羅、備北」で30%の企業が意向を持つ。
- 具体的には、「他地域の新規顧客の開拓」が最も多く(15%)、「顧客サービスの充実」(11%)
「他地域の協業・連携先の開拓」(7%)。他地域での販路拡大を視野に入れた事業展開を見据えていることが窺える。

何らかの事業展開を考えている割合



新たな事業展開の意向



企業ヒアリング

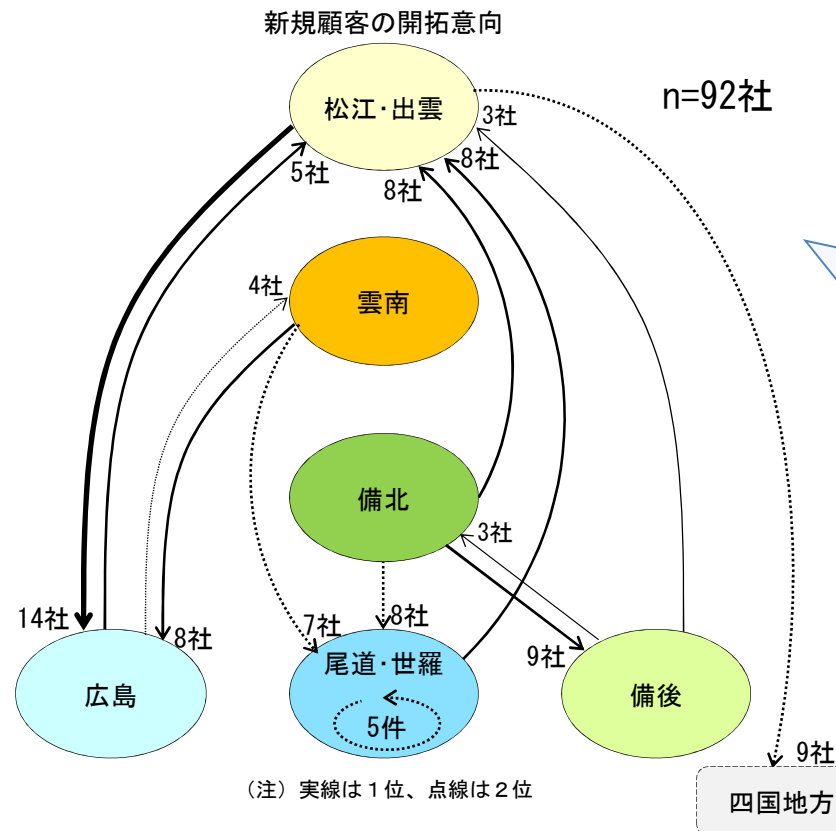
山陰地域へ販路を増やしていくを考えている。(尾道・世羅地域、製造業)

やまなみ街道を活用して、備後・備北エリアに商圈を拡大していきたい(雲南、農林水産業)

(2) 新規顧客の開拓意向

- 「他地域の新規顧客の開拓」の対象エリアは、松江・出雲、雲南で「広島」が第1位。松江・出雲では「四国」が第2位。山陰と四国が高速道路で直結した効果が表れている。
- 松江・出雲の製造業・建設業では取引先拡大の意向が。ビジネスマッチングの活用希望など、既に取引先・商圈が拡大する観光以外の産業でも、やまなみ街道を活用した事業拡大意向が広範囲・多業種で醸成されつつある。

新規顧客の開拓意向



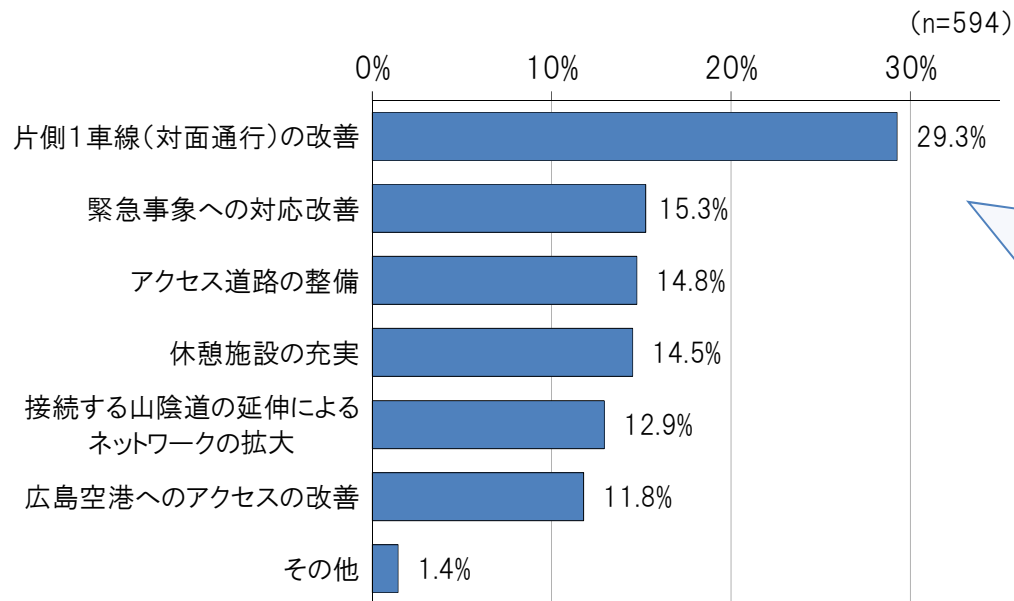
企業ヒアリング

- ビジネスマッチング等の機会に取引先を探している。(松江・出雲地域、製造業)
- 山陰地域は人口規模が少なく商圈として考えていなかったが、やまなみ街道開通後に来客数が増えた。今後は広域的に周遊できる対象地域として営業していきたい。
(尾道・世羅地域、農林水産業(観光施設運営))
- 移動時間が短縮され、同じ距離でも滞在時間が長く取れるようになり、営業先を増やすなど顧客の新規開拓ができる。
(尾道・世羅地域、卸売業)

(1) 安全面への配慮

- 中国やまなみ街道に今後求めることとして道路整備・安全面への期待が高い。
「片側1車線(対面通行)の解消」が最多(28%)。次いで「緊急対応(事故・大雪等の異常気象等)の改善」(15%)。
- 高速道路から降りずに立寄れるサービスエリア・パーキングエリアの整備(トイレ・給油利用)などの声も。

中国やまなみ街道の利用にあたり求めるもの



企業ヒアリング

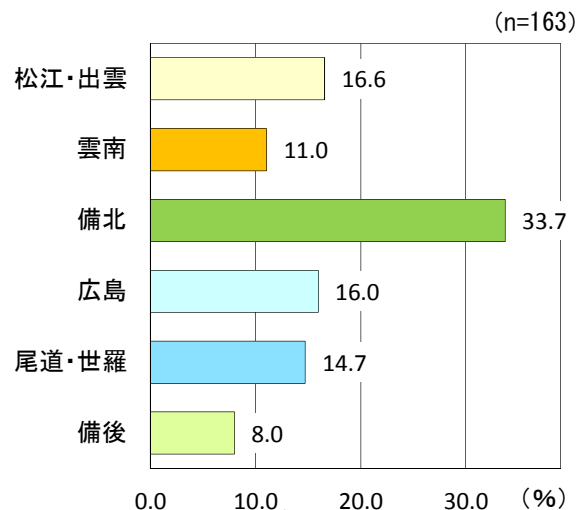
- 片側1車線では定時性が確保できない(遅くなる)片側2車線化で定時性が更に高まる。
(雲南地域、農林水産業)
- 片側1車線では事故時に通行止めのリスクがある。安全のため、事故時に対向車乗り越えを防ぐ中央分離帯の設置を。
(松江・出雲地域、製造業)
- 高速道路は少額でも有料化することで、日常利用者の過度の乗入れを抑制し渋滞緩和に寄与するのでは。(松江・出雲地域、建設業)

(2) 広島空港へのアクセス

- 「広島空港へのアクセスの改善」への希望は、備北が33%、松江・出雲地域でも16%。
- 松江・出雲地域の事業者からは、出雲・米子空港の「東京便運賃の高さ」「国際便就航数の少なさ」を受け、「フライトロードが整備されれば広島空港利用も増える可能性がある」との意見など、広島空港アクセス改善への期待が山陰側でも見られる。

中国やまなみ街道の利用にあたり求めるもの

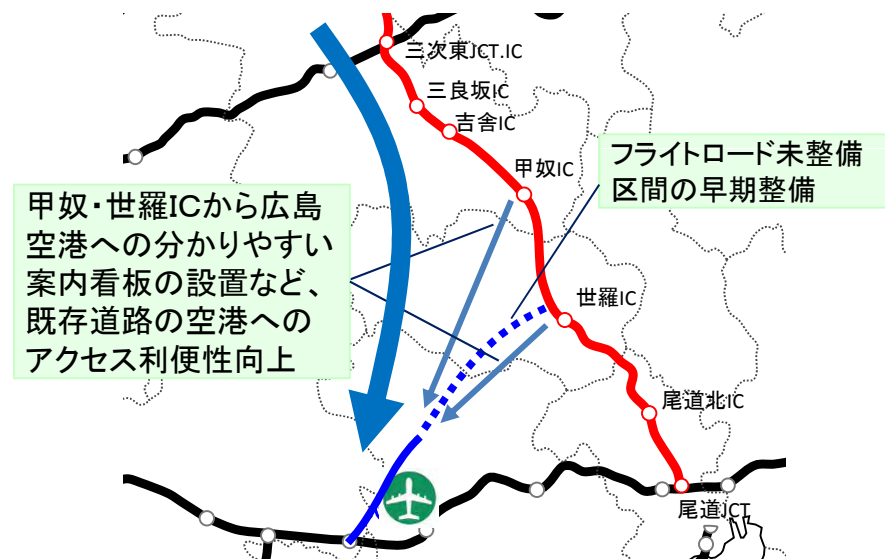
「広島空港へのアクセスの改善」地域別割合



企業ヒアリング

- 出雲・米子便の料金がいため、松江から岡山空港を利用する人も。広島空港は遠い印象があるが、無料の高速道路で繋がれば、岡山空港の代わりに使う人が出るだろう。
(松江・出雲地域、建設業)

山陰方面からの広島空港利用の促進イメージ

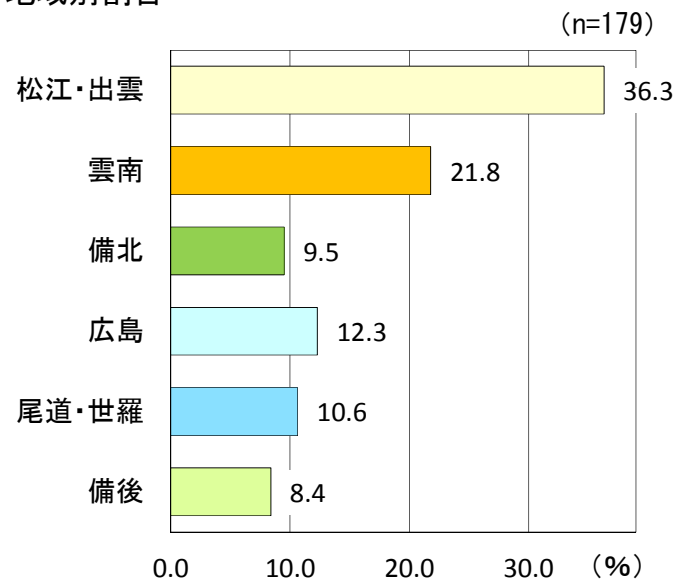


- 松江・出雲から広島空港まで無料の高速道路で行けるようになれば、広島空港利用も増えるのでは。(松江・出雲地域、製造業)
- 広島空港は国際線や札幌便を利用。フライトロードができれば、山陰の周遊観光や東京便利用にメリットが。(松江・出雲地域、宿泊業)

(3) 山陰自動車道への期待

- 松江・出雲地域を中心に山陰のネットワーク拡大を希望（松江・出雲36%、雲南21%）。日常的な物流を担う事業者などにおいて、高い整備要望を確認。
- 整備効果として、雇用範囲の拡大効果、観光客流動の変化（松江・出雲と萩との連携）、九州を商圈と捉えた事業拡大等の意見あり。

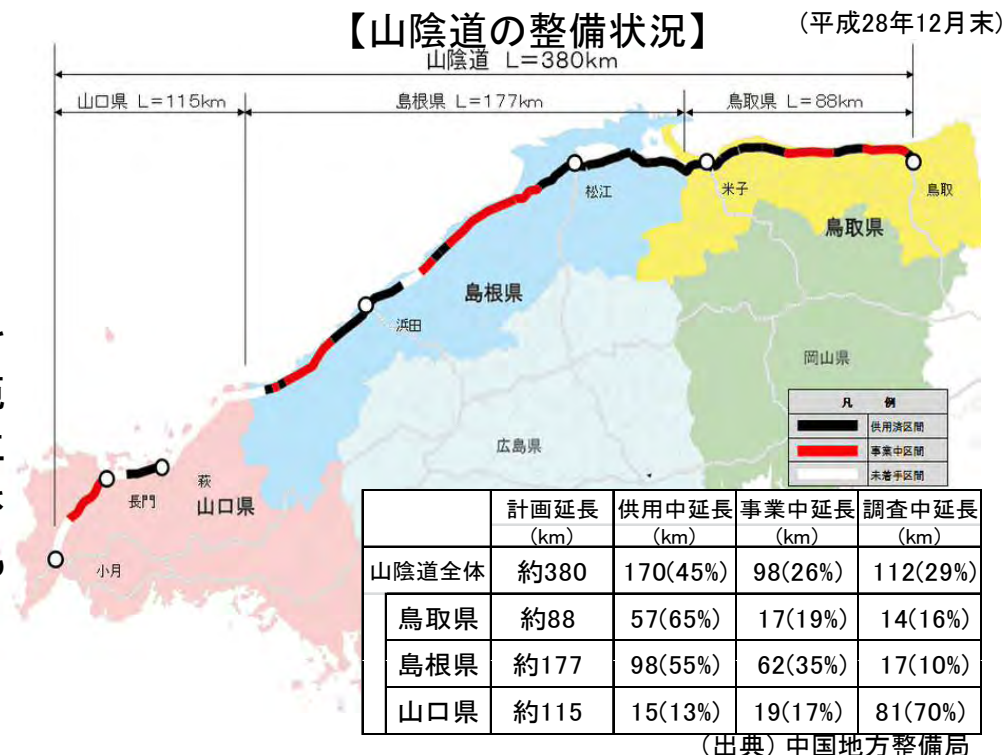
中国やまなみ街道の利用にあたり求めるもの
「接続する山陰道の延伸によるネットワーク拡大」
地域別割合



今後の期待(沿線企業ヒアリング)

- 島根県内には自県産の生鮮食料品を求める声が多く、浜田までの山陰道開通には大きな影響がある。（雲南、農林水産業）
- 現在、島根の東部と西部を結ぶ物流は少ない。山陰道開通により、西部の産品も東部に入ってくるなど、物流の増加を期待。（雲南、卸売業）
- 現在、萩まで4時間かかるところが、山陰道ができると観光客の動きが変わり、萩も周遊圏内となる。萩は世界遺産にもなり、まちも変わってきている。（松江・出雲、宿泊業）
- 萩・津和野まで繋がれば、更に広域的な観光ルートを遠方の旅行会社に提案できることになり、ありがたい（尾道・世羅、農林水産業（観光施設運営））
- 山口県、中国道まで繋がると九州へのルートができる。距離の壁が低くなり、九州を新たな商圈と捉える業者も出てくる。（松江・出雲、建設業）
- 山陰道ができると、大田が通勤圏内になるなど雇用範囲の拡大に繋がる（松江・出雲、製造業）

- 山陰自動車道の整備状況については、依然として供用率45%に留まっており、特に山口県内の整備の遅れが大きい。
- 山陰自動車道への期待等について、行政機関、経済団体、調査機関を対象としてヒアリング調査を実施したところ、同道路の整備（延伸）による山陰と九州との連携拡大が期待される一方で、全通に向けた課題等も挙げられた。



今後の期待・課題等(沿線行政機関・経済団体等ヒアリング)

- 山陰道が萩まで繋がることにより、九州方面からの広域的な物流ネットワークの構築が見込まれる。
- 山陰には萩から鳥取までの広域観光周遊ルートがあり、「山陰DMO」「広域観光周遊ルート」「インバウンド」といった視点で山陰道の活用が期待できる。
- 道路が繋がることにより通勤圏や人の流れの拡大、U・I・Jターンの増加を期待。山陰道を地方創生にどう絡めるかが重要。
- 鳥取県内は大体の目途が付いた。島根県内では、既に暫定片側1車線で整備された区間の片側2車線化が課題として挙げられる。
- 山陰エリアは、地震の少ない地域であり、中国やまなみ街道をはじめとする交通インフラが整備されるなど企業立地向上に向けた条件面が整ってきたと言える。
- 圏域ごとに広域消防本部があり、救急医療体制の側面からみてもこの生活圈ネットワークは重要な意味を持つ。B/Cばかりでなく、こういった視点も重要。

2. 中国やまなみ街道の全線開通に伴う波及効果・今後の方向性

-  山陰・山陽間の広域的な物流・人流の拡大
-  沿線の地域振興に向けた取組の活発化
-  沿線の経済活動の拡大、交流・連携の進展
-  中山間地域における地域内ネットワークの拡大

全線開通に伴う波及効果

1. 山陰・山陽間の広域的な物流・人流の拡大

- 県境を越えた取引先・商圈エリアの拡大
- 観光の広域化、広域連携の促進

より広域的なネットワーク形成へ

- 山陰自動車道の整備
- フライトロードの整備
- 広域周遊ルート of 拡大

2. 沿線の地域振興に向けた取組の活発化

- 沿線の観光拠点の整備
- 農作品のブランド化、地元農業の活性化

地域拠点整備を活かした更なる地域の振興へ

- ローカルハブの強化
- 地域農業の活性化
- 高速道路沿線から外れた地域の活性化

3. 沿線の経済活動の拡大、交流・連携の進展

- 販路拡大など新たな取組の進展
- 新たな工業団地の造成・分譲
- 産業における新たな広域連携の活発化

高速道路整備を契機とした企業活動の活性化へ

- 事業拡大・連携の促進
- 結節点の強みを活かした物流・産業拠点

地域内ネットワーク

4. 中山間地域における地域内ネットワークの拡大

- 通勤、医療、買物等の日常生活圏の拡大
- 高速道路ICを起点とした交通アクセス向上

高速道路整備効果を積極的に捉えた中山間地域の居住促進へ

- 中山間地域での居住促進
- 通勤圏拡大による雇用確保

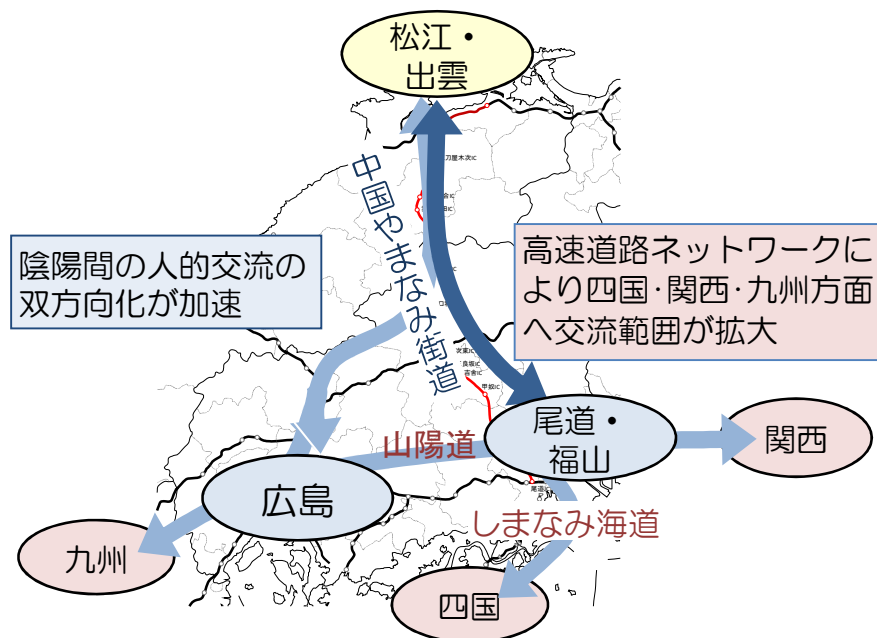
1. 山陰・山陽間の広域的な物流・人流の拡大

全線開通に伴う効果

- 観光：中国やまなみ街道と中国道、山陽道、しまなみ海道等が接続した高速ネットワーク効果により、観光ルートが広域化
- 産業：広域的な物流効率が向上、県境を越えた取引先・商圈エリアが拡大

観光等の人的交流の活発化

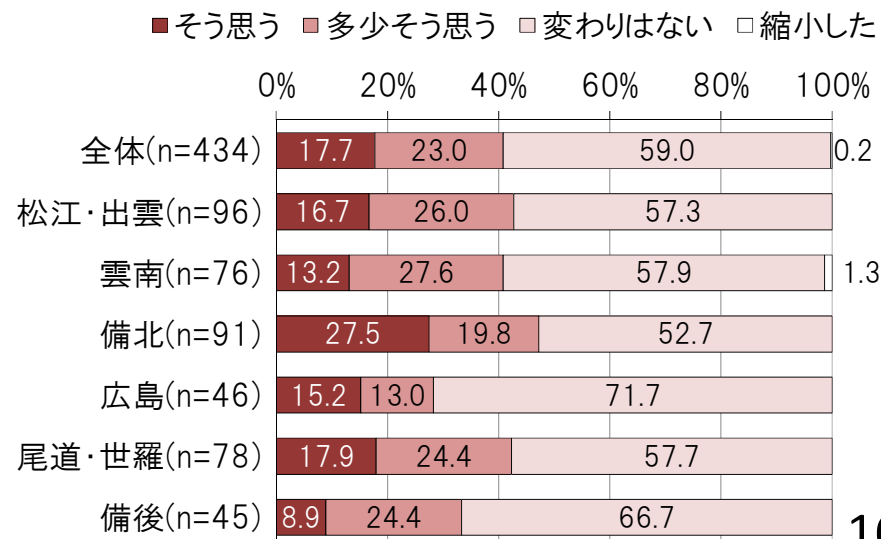
- 陰陽の交流の双方向化に加え、しまなみ海道・山陽道との接続により、関西や四国・九州など集客範囲が拡大。
- 観光ルートの広域周遊化により、宿泊型ツアーが創出

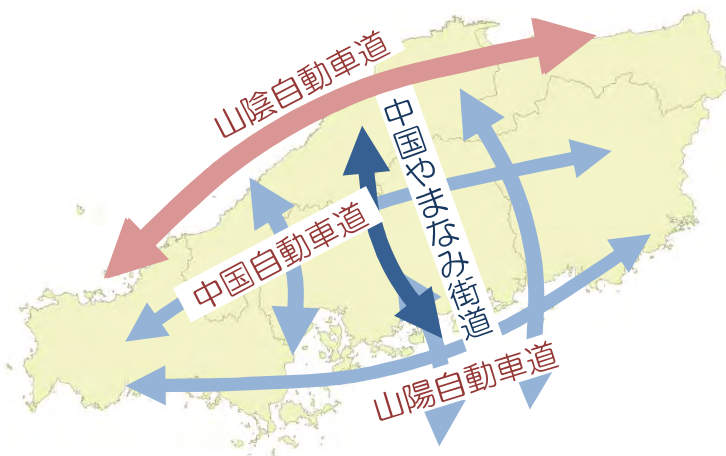


取引先・商圈の拡大

- 沿線企業アンケートでは、約4割の企業がやまなみ街道の全線開通による「取引先・商圈の拡大」効果があったと回答。

中国やまなみ街道利用による 事業活動への効果・影響 〔取引先・商圈が拡大した〕



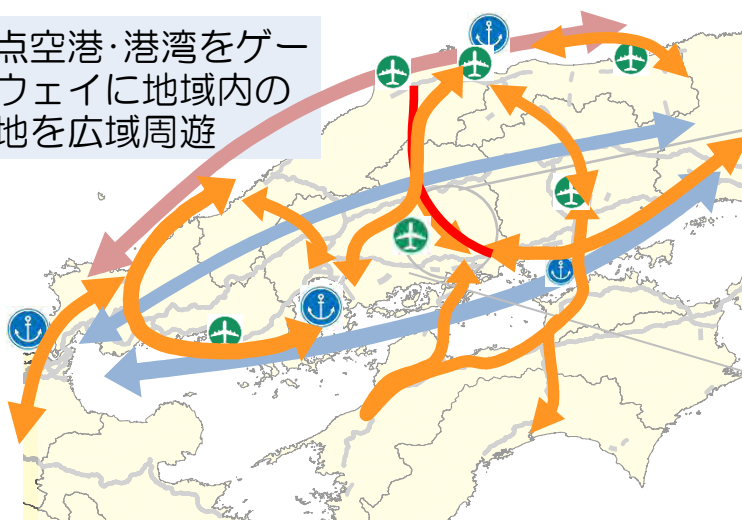


■ 中国地方の高速道路ネットワークの更なる強化に向けた山陰自動車道の整備促進

- 山陰道整備により中国地方に形成される格子状の幹線道路網を活用し、陰陽間の更なる連携強化を促進、広域的な観光・産業振興を活性化
- 中国地方の道路ネットワーク、拠点空港・港湾など、交通モードを越えた広域連携を促し、人流・物流を促進

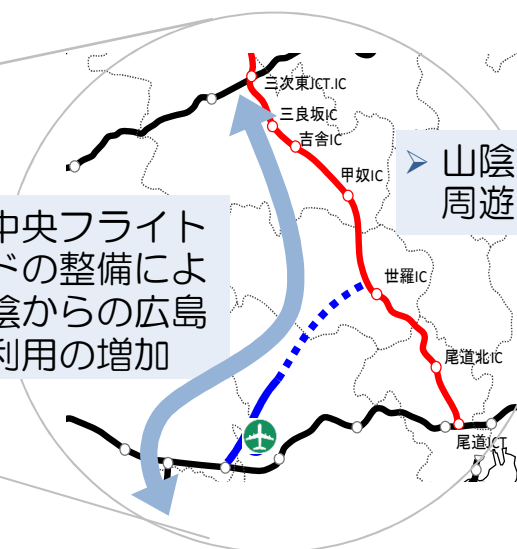
■ 高速道路ネットワークと各地域の空港・港湾等の連携による、広域周遊ルート拡大

- 拠点空港・港湾をゲートウェイに地域内の各地を広域周遊



■ 広島空港と山陰を結ぶ広島中央フライトロードの整備促進

- 広島中央フライトロードの整備による山陰からの広島空港利用の増加



- 山陰方面の周遊ルート増加

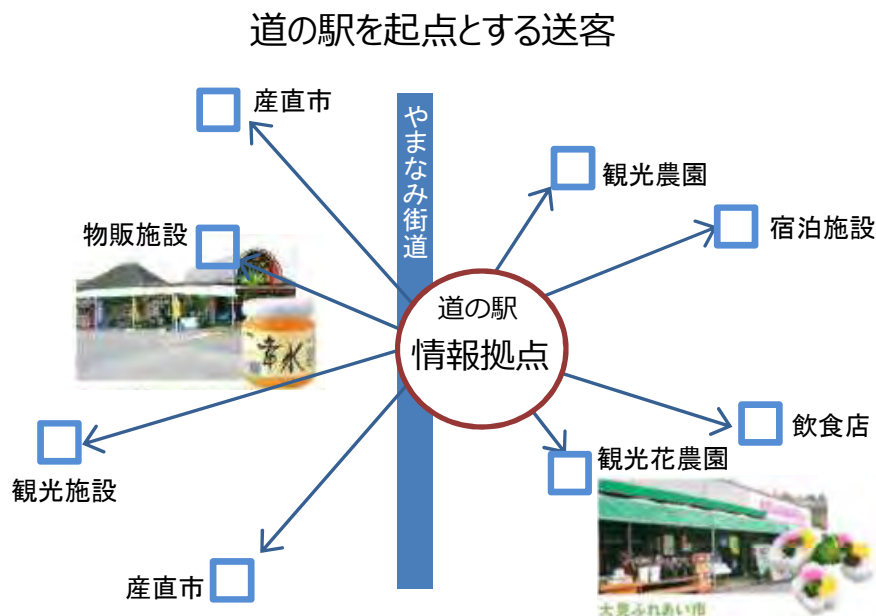
2. 沿線の地域振興に関する取組の活発化

全線開通に伴う効果

- 中国やまなみ街道のIC近辺に道の駅が整備されるなど、沿線地域において観光情報拠点、物販拠点、宿泊機能等が充実
- 道の駅を地域特産品の販売拠点と位置付け、品質の高い野菜・特産品を活かした農作物・加工品のブランド化が進展

地域の観光情報拠点

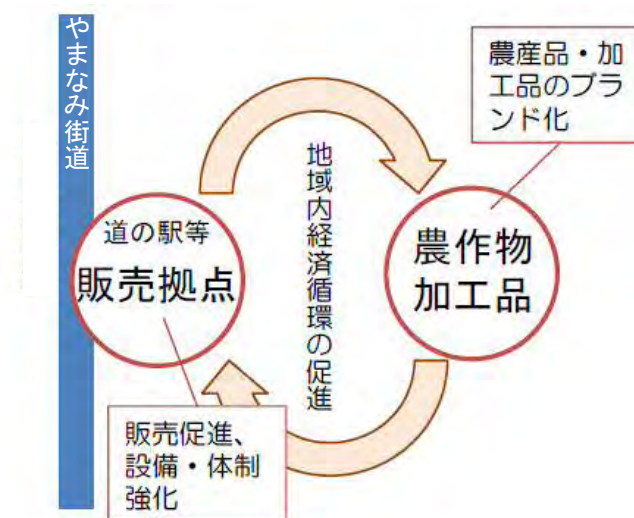
○沿線道の駅では地域資源を活用し、道の駅が各地方のローカルハブとしての役割を果たしながら地域毎の特色を活かした取組を展開する。



地元産品の販売拠点

- 道の駅を地域特産の販売拠点としながら、域内バリューチェーン(農産品生産・加工・販売・PR等)を地元生産者が連携して構築
- 地元産にこだわる商品開発・ブランド化により、地元農業の活性化を推進

道の駅を起点とする地域内経済循環



- 沿線道の駅等がローカル・ハブの役割を果たしながら、地域毎の特色を活かした取組を展開

➤ 「地域特産品の販売拠点化・ブランド化」「地域の観光情報拠点化」など、地域資源を活用しながら地域振興施策を横展開し、各地域の自立的展開を促進。

地元産にこだわった商品例



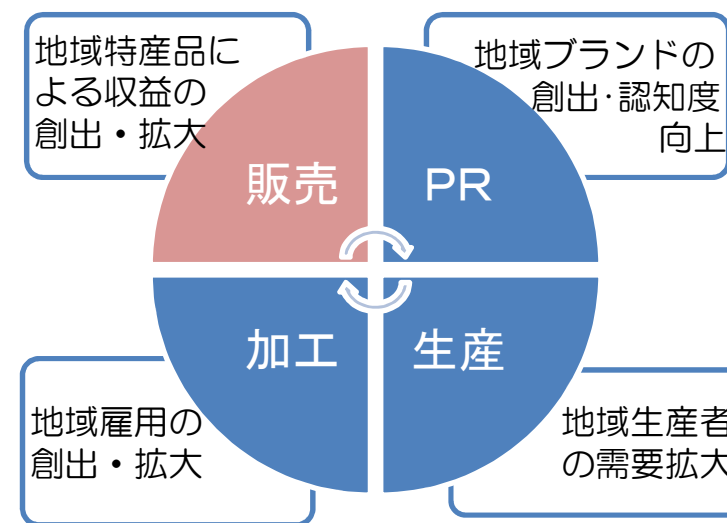
- 高速道路(中国やまなみ街道)に並行する在来国道(54号等)沿線地域の活性化に向けた取組推進

➤ 高速ネットワークから離れる立地条件の不利を地域密着型のサービス提供※等の差別化により地域の強みへと転じ、地域活性化を推進

- 地域の農作物・加工品のブランド化、販売促進などにより、地域内経済循環を促進

➤ 物販拠点での地域産品拡大による雇用誘発（地域内の農業生産・加工品製造増へ繋ぐ）
➤ I ターンなど新規参入者の誘致等による農産物の地域生産者の増加、農業振興の促進

道の駅を拠点とするバリューチェーンの強化



※(例) 地域食材レストラン
高齢者向け食事宅配サービス
サイクリングロード・関連施設の整備 など

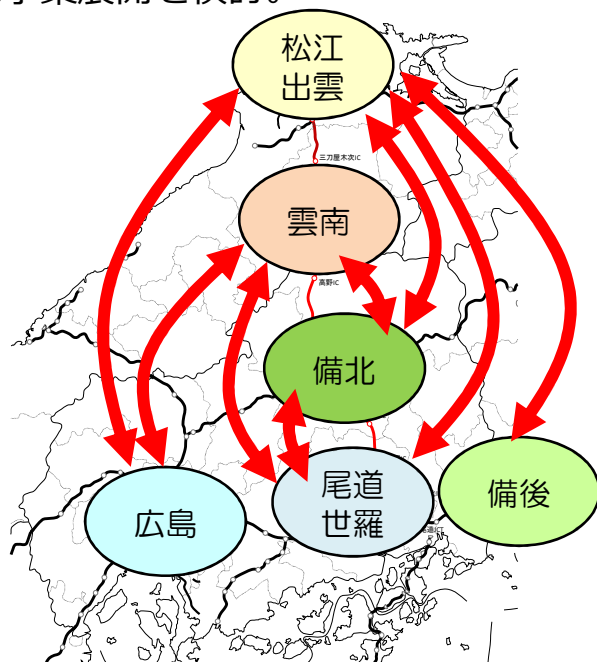
3. 沿線の経済活動の拡大、交流・連携の進展

全線開通に伴う効果

- 沿線企業では、物流効率や顧客・取引先への訪問効率が向上するなどの効果が発現し、様々な業種で営業範囲の拡大、新規顧客獲得に向けた取組が活発化
- 三次や出雲斐川など、高速ネットワークの結節点を中心に工業団地開発が加速
- 尾道・松江・松山・今治での合同会頭会議の開催等、新たな広域連携が進展

沿線地域の営業範囲の拡大

- 中国やまなみ街道全通にともない、沿線企業の取引先・商圈エリアは中国やまなみ街道に沿って南北に拡大。
- 沿線企業の1/4は、高速道路開通を契機に新たな事業展開を検討。

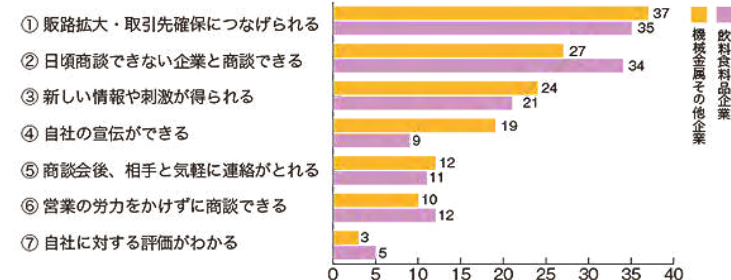


沿線地域の連携活発化

- 地域の経済圏域を越える産業・企業交流が進展。山陰・山陽、四国との間の交流促進策が具体化へ
「ビジネスマッチング商談・展示会2016in松江」
(11月開催)

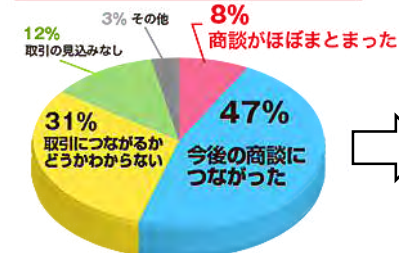
H27結果：134社が参加、延528件の商談を実施

商談会・展示会に参加して有意義だった内容（複数回答）



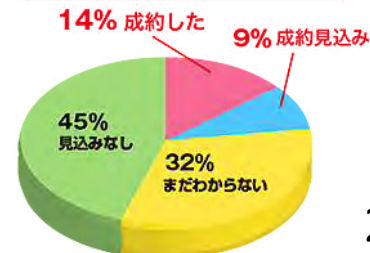
当日の商談見通し

55%の商談が今後の成約につながるものとなった



商談の成果(3か月後時点)

商談の23%が成約または成約見込みとなった



■ 交通結節点の強みを活かしたインターチェンジ周辺での物流拠点・工業団地等の整備促進

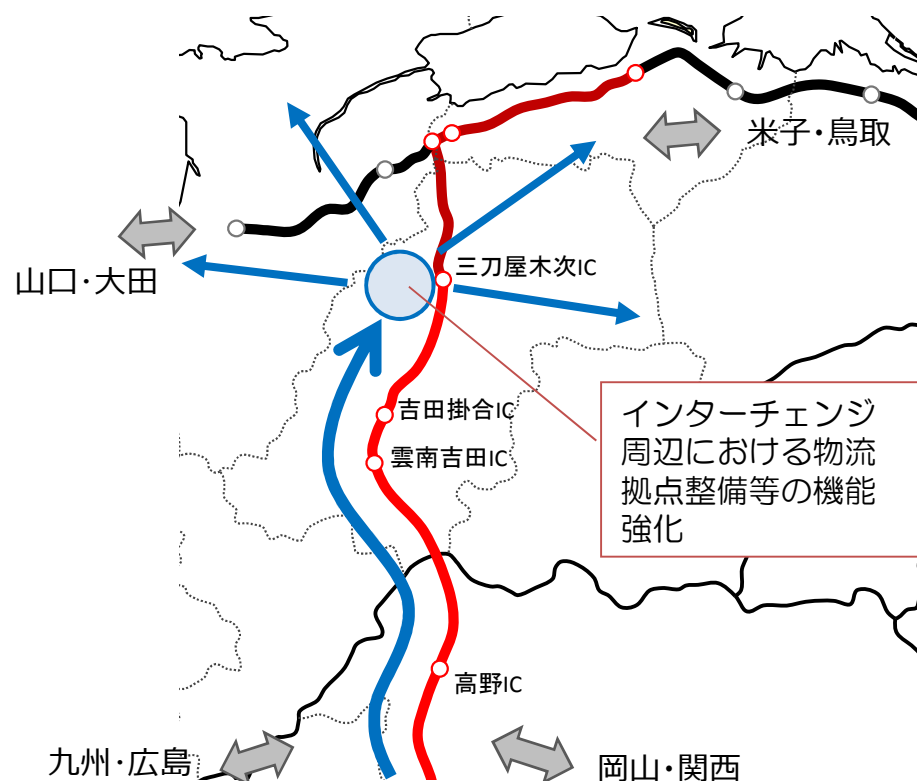
・やまなみ街道と山陰道（中国道・山陽道）が結節するインターチェンジの近隣(例:三刀屋・三次等)において、高速ネットワーク効果を活かした物流拠点整備や企業誘致を促進

■ 高速道路整備を契機とした新たな事業拡大、事業連携の活性化

・他地域との交流・セミナー等の活用により、沿線企業(主に中小規模事業者)に対する事業拡大の支援(ローカルネットワークの構築)を促進。
・沿線企業間の事業連携に向けた商談会等、企業マッチング・コーディネートを促進。

物流拠点整備による機能強化イメージ

セミナー、商談会等の開催



■ 企業の物流活動を担う中国やまなみ街道における暫定2車線区間に対する安全対策の促進

・付加車線や中央分離帯の強化、除雪基地の整備等、暫定2車線区間の安全性を向上させる取組を推進。

4. 中山間地域における地域内ネットワークの拡大

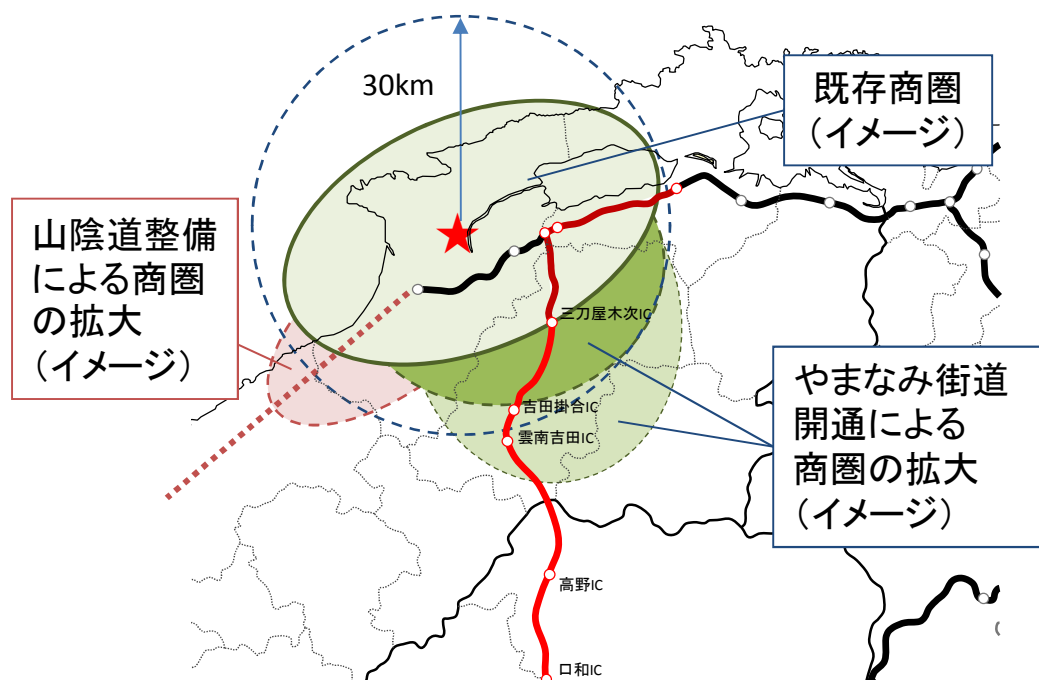
全線開通に伴う効果

- 無料区間を利用した通勤圏、医療圏、買物圏等の地域内ネットワークが拡大
- 高速道路ICを起点とした交通アクセスが向上（高速料金無料の特性を活用）

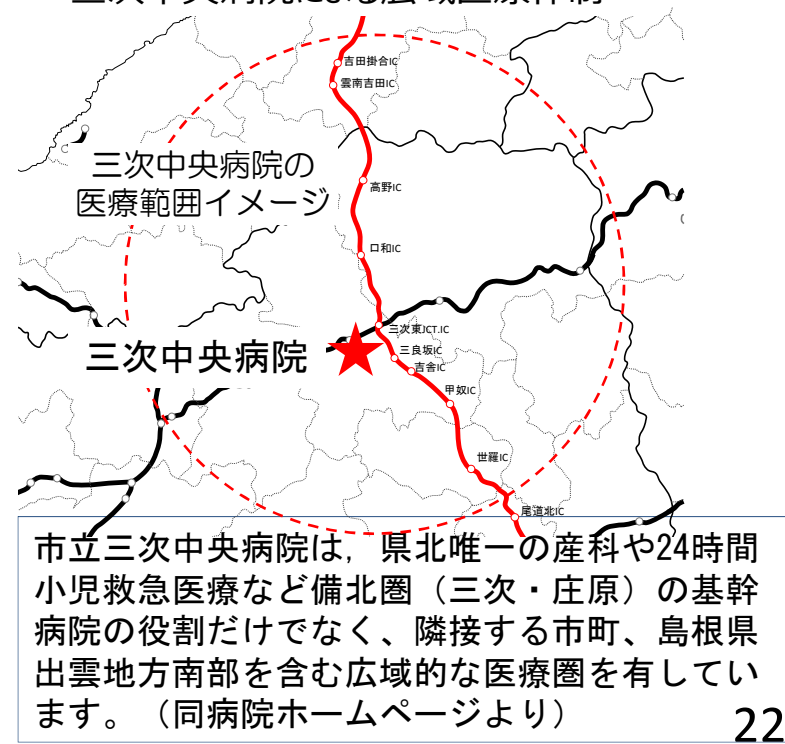
通勤圏、医療圏、買物圏等の地域内ネットワーク拡大

- 中国やまなみ街道の全線開通にともない、通勤圏、医療圏、買物圏等の地域内ネットワークは同高速道路に沿って南北軸を中心に拡大。

出雲市中心部のショッピングセンターの商圈拡大



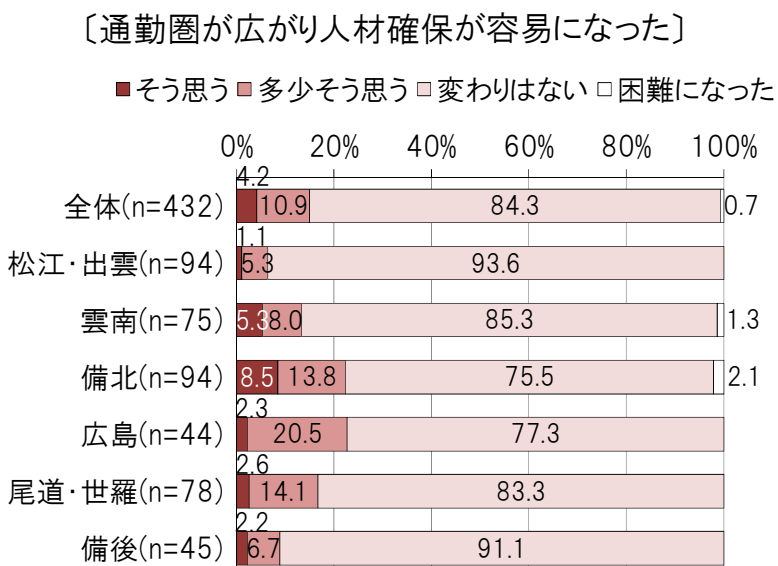
三次中央病院による広域医療体制



- 日常生活圏の拡大効果を積極的に捉えた中山間地域の居住促進への展開
- 通勤圏の拡大を活かした雇用範囲拡大（雇用確保）

- ・「高速料金無料」の特性を活用した日常生活圏の拡大効果を積極的に捉え、移住・定住に向けたPR等、中山間地域への居住促進施策を展開。
- ・中国やまなみ街道沿線の立地企業に対し、無料の高速道路による通勤圏拡大メリットを活かした雇用範囲の拡大を促進。

やまなみ街道利用による事業活動への効果・影響



全通後1年程度の時点では未だ通勤圏の拡大効果はあまり見られていない

中山間地域の居住促進・雇用範囲の拡大イメージ

